

1. 人が集まる場所への屋外広告

福岡市の郊外に九州大学が移転中である。魏志倭人伝にも登場する伊都地区である。その歴史の幕が閉ざされて久しく、麗らかな自然と農業の地域に、再び文明拠点が発見されつつある。こうして人の動きが激しくなってきた途端に、沿道の田畑に屋外広告物（一般広告＝貸し看板）が林立するようになった。調査の結果によると、無許可の広告物が多い。広告主は医院が大半である。予想をされていて、キャンパス直近の地域では景観形成地区に指定するなど一定の対策は講じたが、対象からはずれた場所には増殖し続けている。

2. 屋外広告の乱立の制御

自然発生的な郊外の屋外広告物は、下記のような特徴を持っている。

- 1) 人が集まりはじめると屋外広告が増える。
- 2) 無許可の屋外広告物が出てくる。
- 3) 広告主として医院が多い。
- 4) 地権者に自発的な自制を期待することは困難である。

そこで、次のような対策が必要である。

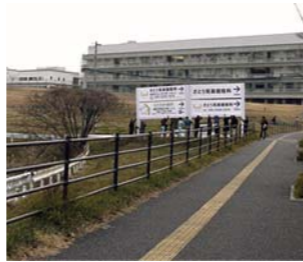
- 1) 人の動きを予測した屋外広告指導が必要である。
- 2) 無許可の屋外広告物を許さない。
- 3) 広告主への指導をする必要がある。
- 4) 地域が一体となった運営を検討する。

3. 屋外広告の情報量

当該地区の沿道の屋外広告物（一般広告）を調査した。文字数 65 文字以内が約 90% を占めた。表示している情報は、広告主名、電話、住所、方向、距離、商品等である。

広告主としてはこの情報量を表示したいと思われるが、この情報量は短時間に認識できる範囲を超えている。適正な大きさや情報量を検討するために、原寸大の模型で調査をした。

80m 以上の視認距離が得られることと、0.3 秒で読める文字数 15 文字程度を前提として、文字高 20cm、または 30cm をそれぞれ 15 文字以上表示できるものとする。次の段階の文字の大きさをそれぞれ文字高



原寸大のサンプルで、視認性や適切な大きさ、並べ方、情報量などを調査。



地元と大学、行政が一体となったタウンオンキャンパス研究会で、地域に調和する広告のあり方を検討。

10cm、15cm とし、さらに小さい文字を 65 文字以上表示できる広告面のサイズとして、幅 3200mm×高さ 800mm、および幅 4100mm×高さ 1100mm の2種類の広告面を用意し、印象評価を行った。

その結果、小さい文字が多い屋外広告物は比較的评价が低くなり、2段階の 30 文字程度のものが評価が高かった。実際の屋外広告物も、約 60% が 30 文字程度以内である。

黒地が景観に調和しやすいのではないかと考えていたが、白地と黒地で印象に差が見られなかった。しかし、意図的にデザインを個性化したサンプルは評価が高かったため、デザインによる差は大きいと思われる。

幅 4100mm と幅 3200mm では、差がなかった。つまり、視認距離 80m では、「どちらでもいい」という結果であった。

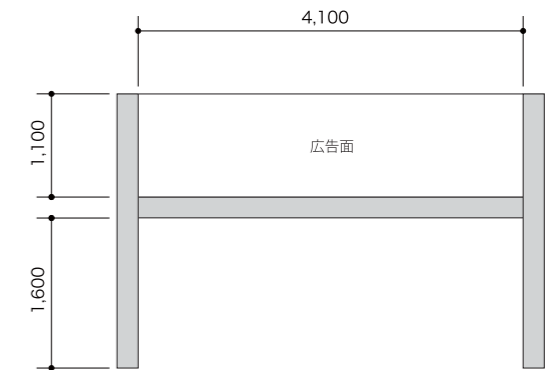
幅 4000mm の屋外広告物を横に2列に並べた場合は、幅がやや広いという印象であり、縦2段の場合でも印象は低下しなかった。なお、事前の紙面調査では、縦3段になると評価が低下した。

4. 効果的な郊外用一般広告の目安

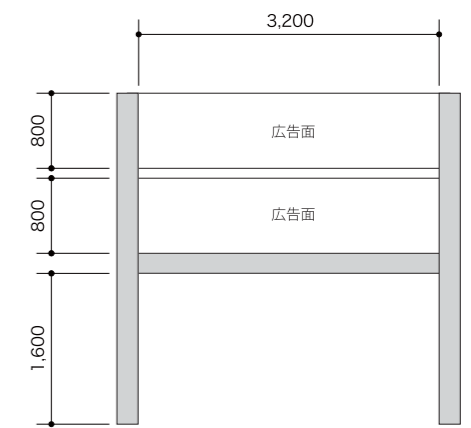
郊外の沿道、農地等に掲出される屋外広告物は、周囲の景観を害するとして反感を買う場合がある。しかし、眺望などを大切にしている特別な景観地区以外では、地域の利便性や地権者のニーズを考慮すると、禁止しなくてもいい場合がある。放置は好ましくなく、相互の調整点を模索すると、概ね下記のとおりとなる。これは、理屈や実験から導いた結果であり、地域の状況に合わせて検討する必要がある。ちなみに宮崎市では一般広告は誘導広告のみとし、1 m²以内としている。自然や沿道景観を大切にすることを内外に示している。

調和点をさぐる場合の大まかな目安として、下記を提案する。

- 1) 広告面：幅 3200mm×高さ 800mm が必要十分な大きさであり、交通量や条件を考慮して幅 4100mm×高さ 1100mm も可能である。
- 2) 文字数：主情報 15 文字以内、副情報 15 文字程度とし、30 文字程度までが望ましい。
- 3) 幅 3200mm の場合は横2列、縦2段までが可能、幅 4100mm の場合は横1列、縦2段以内とすることが望ましい。
- 4) デザインをしっかりと考える。



広告面：幅 4100mm×高さ 1100mm のタイプ。文字高 300mm×15 文字以上に対応。横 2 列に並べるとやや広すぎるとの評価。つまり、幅 4100mm の場合は 1 列に限る。縦 2 段は許容できる範囲である。



広告面：幅 3200mm×高さ 800mm のタイプ。文字高 200mm×15 文字以上に対応。横 2 列、縦 2 段にしても景観を損ねるとの評価にはならない。(書面調査で、縦 3 段は好ましくないとの評価であった)

本研究は、佐藤優十・浦池佐和子・協力ユン・ジョンアによるものであり、JSPS 科学研究費 24603015 「屋外広告物の誘導方針の検討と社会実験」の助成を受けて実施した。